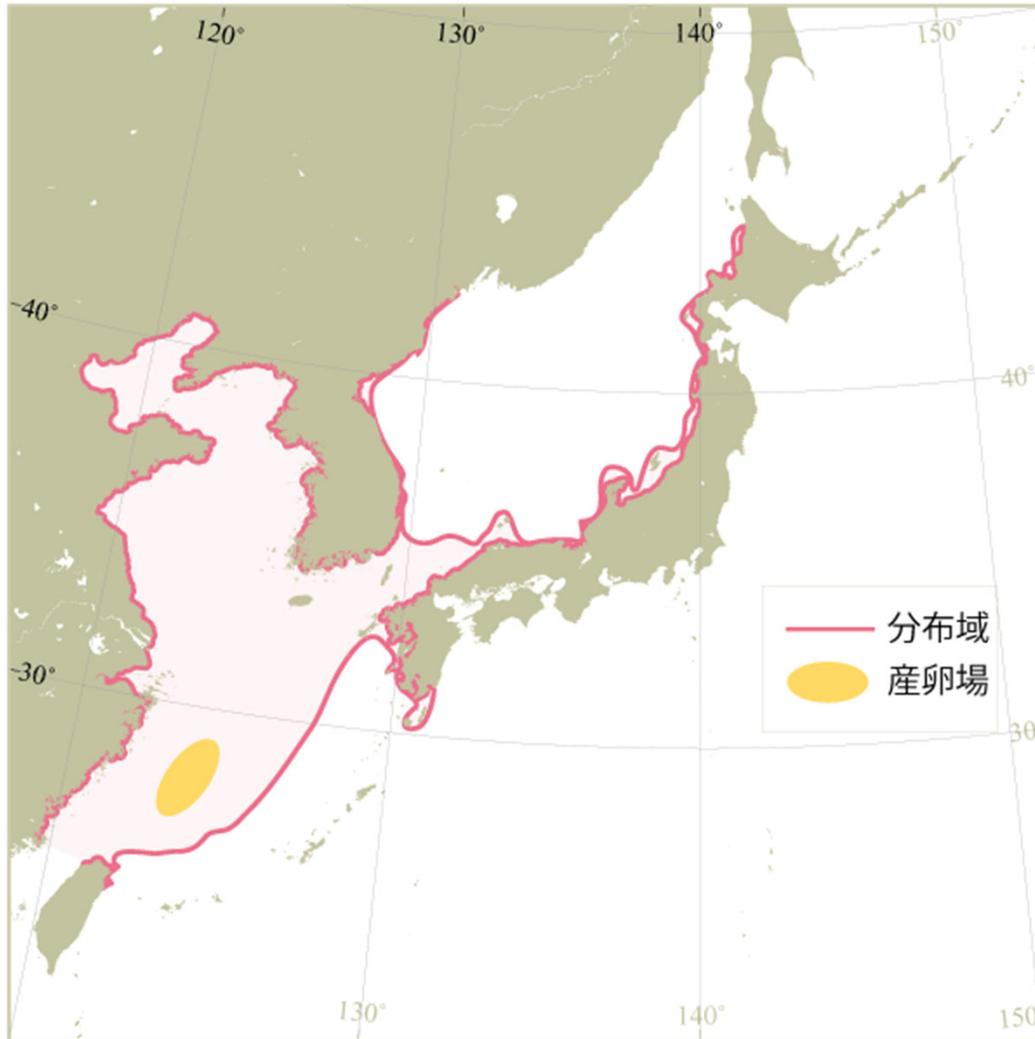




ウマツラハギ  
日本海・東シナ海系群  
令和6年度資源評価結果

# 生物学的特性

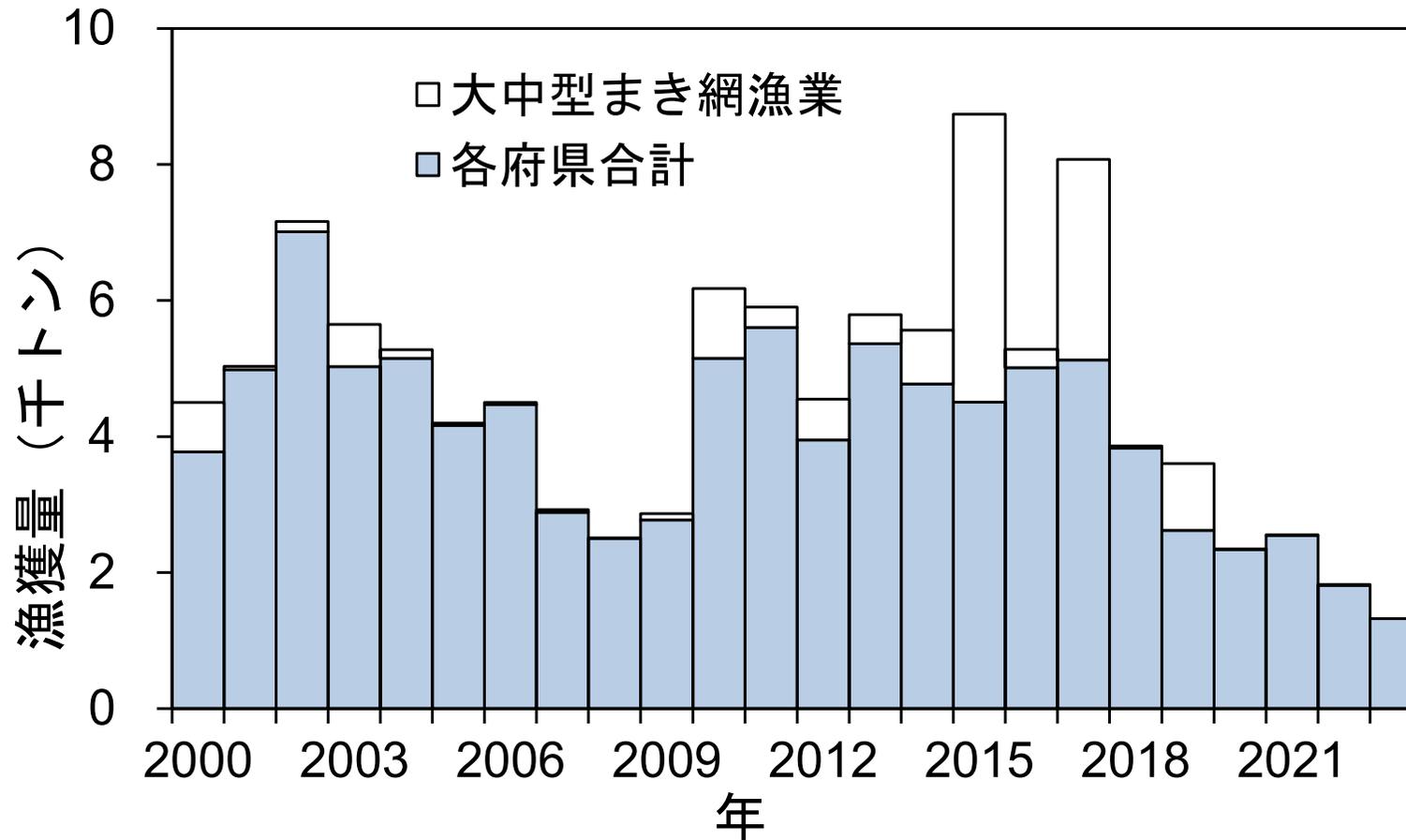


## 生物学的特性

- 寿命：10歳
- 成熟開始年齢：筑前海で雌雄ともに1歳（率不明）、新潟県沿岸の雌で1歳（率不明）、東シナ海の雌で2歳（率不明）、3歳（53%）、4歳（90～100%）
- 産卵期・産卵場：東シナ海域では4～6月、日本沿岸では5～7月
- 食性：カイアシ類、貝類、エビ・カニ類、魚類、ヨコエビ類、ウニ類、ヒトデ類、ヒドロ虫類、鉢クラゲ類、石灰藻を含む紅藻類および珪藻類
- 捕食者：魚類、頭足類等

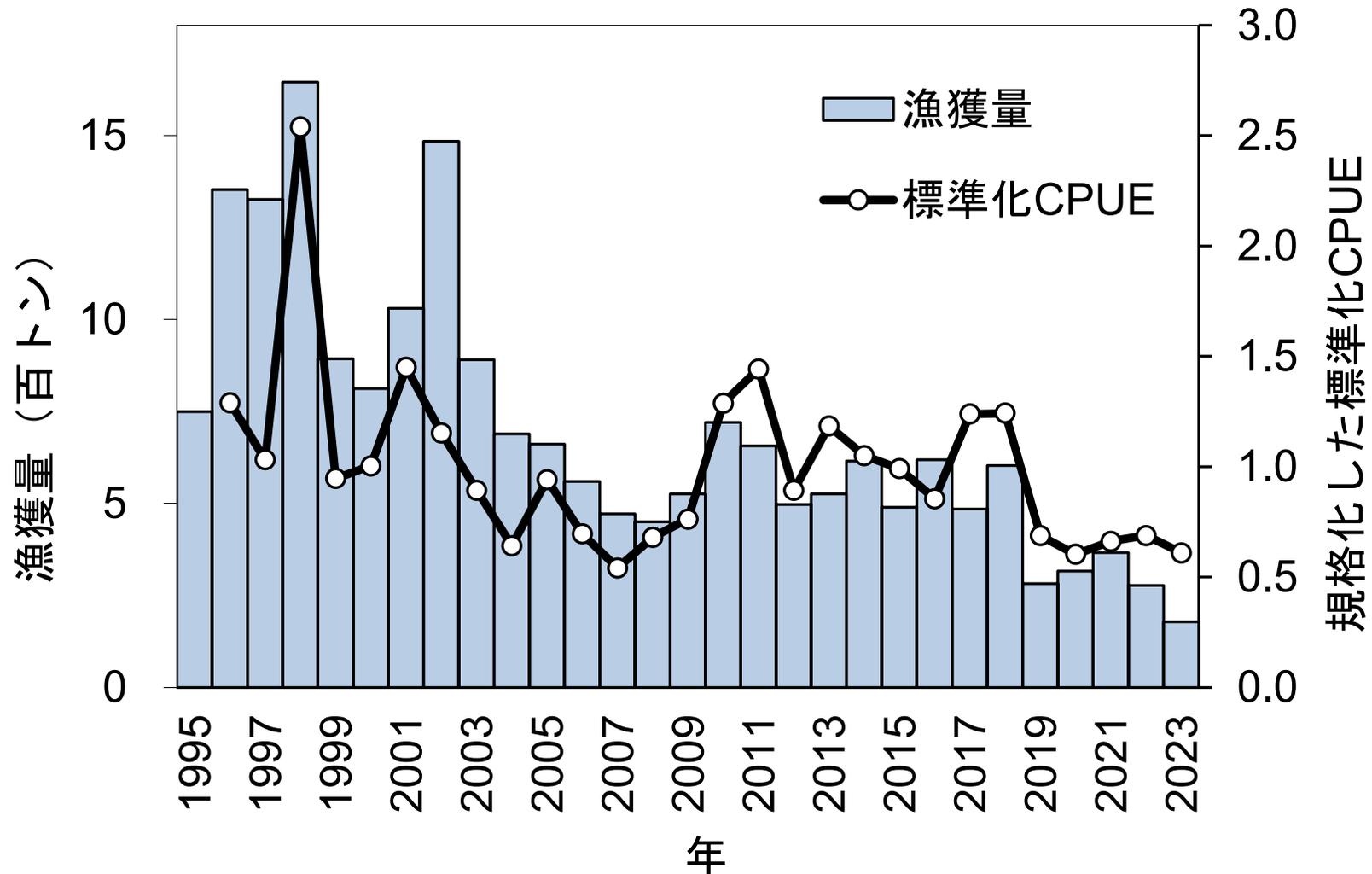
- 我が国周辺および東シナ海、黄海に分布
- 海域により成長が異なる

# 漁獲の動向①



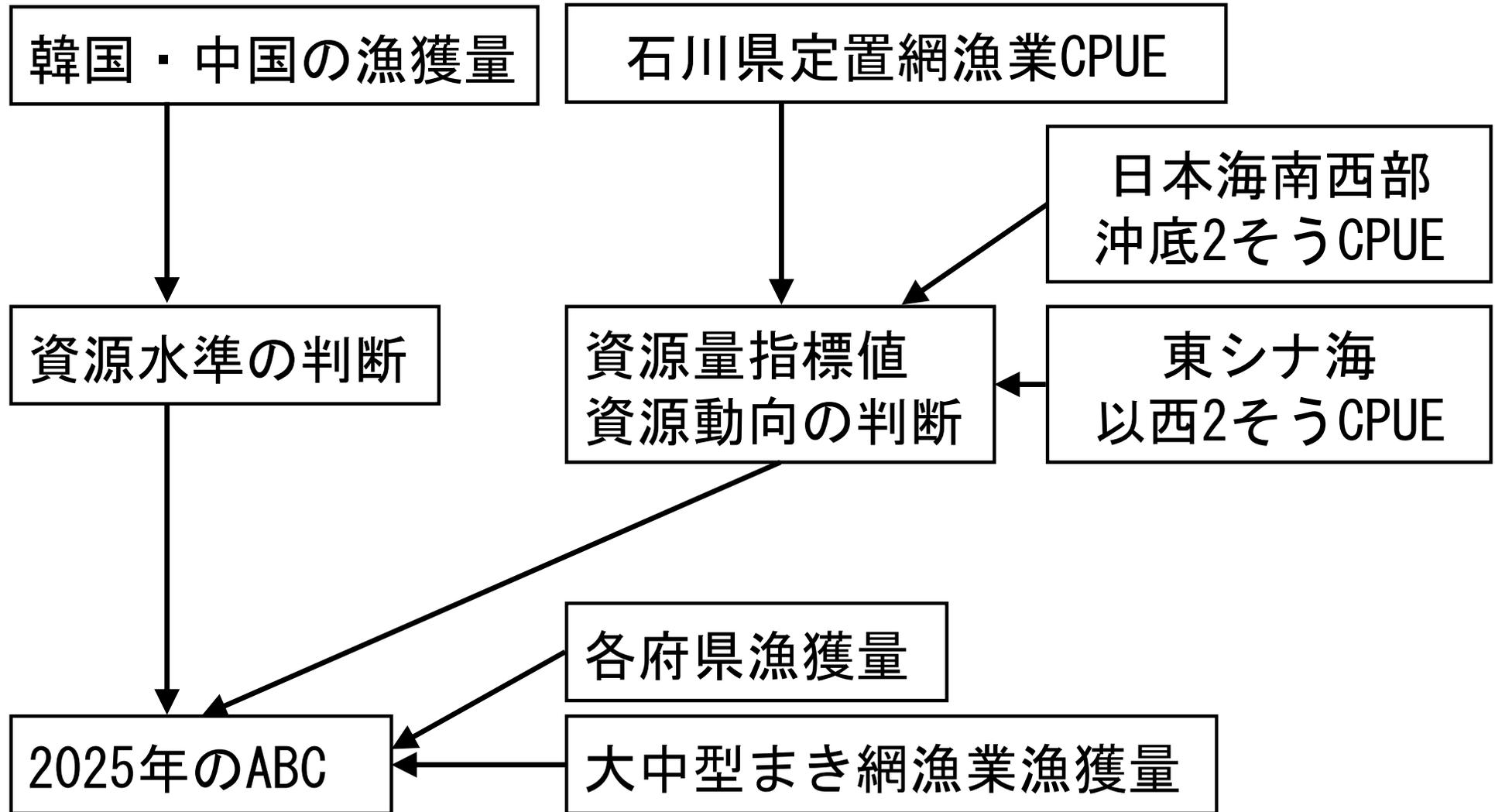
- 2018年以降の各府県漁獲量は減少傾向
- 大中小型まき網漁業の水揚げ量は年変動が大きい
- 2023年の日本の漁獲量：1,324トン

## 漁獲の動向②



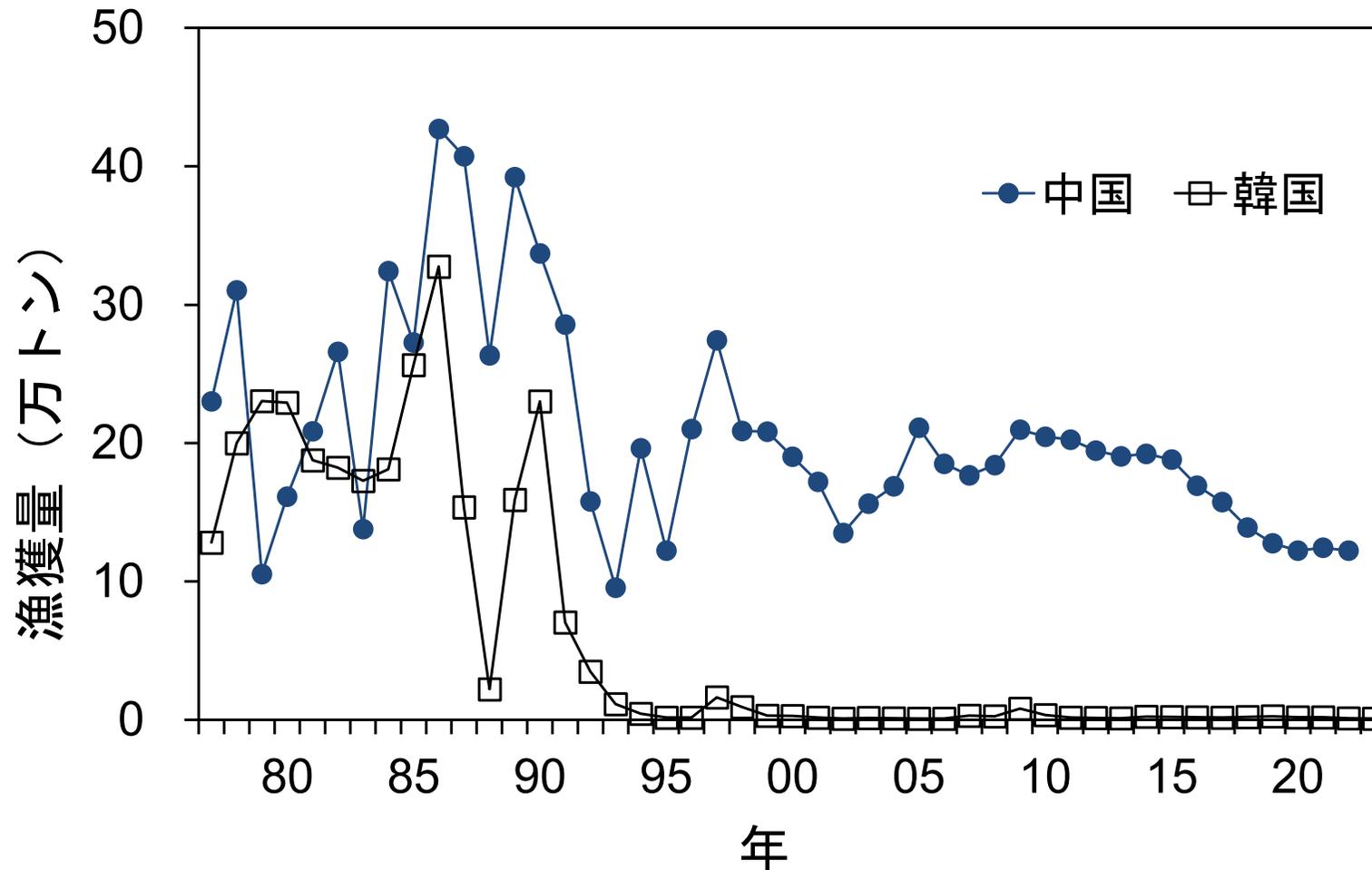
- 石川県における定置網漁業の漁獲量と単位努力量あたりの漁獲量 (CPUE)
- 1998年以降、漁獲量とCPUEともに緩やかに減少

# 資源評価の流れ



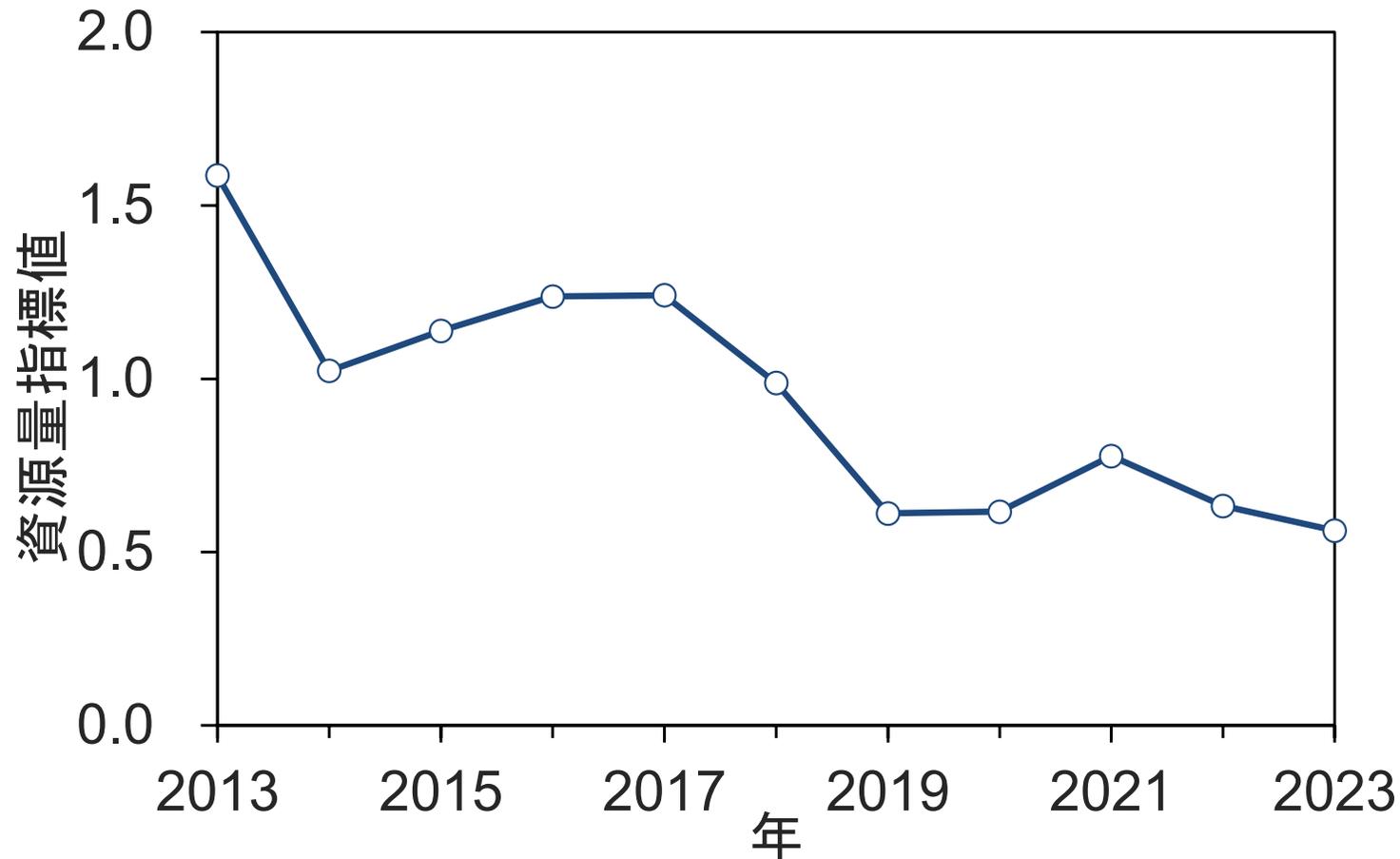
※ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

# 資源の動向①



- 1986年のカワハギ類漁獲量は中国と韓国合わせて75万トン
- 1992年以降低い水準で推移
- 資源水準：1992年以降の、韓国と中国の合計漁獲量が低水準で推移していることから「低位」

## 資源の動向②



- 資源量指標値：石川県における定置網漁業CPUEと日本海南西部の沖合底びき網CPUEおよび東シナ海の以西底びき網CPUEの相乗平均から算出
- 資源動向：直近5年間（2019～2023年）の資源量指標値の推移から「横ばい」

# 資源評価のまとめ

- ウマヅラハギ日本海・東シナ海系群の資源水準は「低位」、動向は「横ばい」
- 漁獲量および資源量指標値に基づいて資源状態を判断

## 2025年ABC

管理基準	Target/Limit	2025年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.7・Cave3-yr・ 0.84	Target	9	—	—
	Limit	11	—	—

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則2-1) により、  
 $ABC\ limit = \delta_1 \cdot Cave3\text{-yr} \cdot \gamma_1$  で計算
- $\delta_1$  : 0.7 (低位水準で平均漁獲量使用時の推奨値)
- Cave3-yr : 直近3年間 (2021~2023年) の平均漁獲量
- $\gamma_1$  : 0.84 (直近3年間の資源量指標値の傾きと平均値より算出)